

はじめに

私がスキャンポのことを知ったのは、2年ほど前のことでしたが、とても驚いたことを覚えております。日本のバイオベンチャーはよく話題に上りますが、このメリーランド州にある小さな会社スキャンポは、あまり注目されていなかったようでした。その日以来、MSA 刊行の「米国製薬業界週報」では、何度かスキャンポの新しい動きを短い記事で取り上げてきましたが、スキャンポは私の中で、引き続き興味を掻き立てられる会社であり続けました。日本に旅行した際、業界に詳しい方々に日本のバイオベンチャーの新しい動きについて伺うと、その度に同じよう名前が挙がってきました。しかし、私がスキャンポのことをお尋ねすると、ご存じないということが、よくありました。今では日本でも、もっと多くの方がスキャンポのことをご存知のことかと思えます。

日本のバイオメディカル研究者の間でも、起業家精神が花開くことを強く願っているのですが、彼らがビジネスで成功するためには、このレポートで「エコシステム」と呼んでいる、協力的な環境が必要です。ベンチャー・キャピタリスト、あるいは株式投資家といった投資家は、こういったバイオベンチャーが直面する厳しい見込みについて、現実的な理解が必要です。彼らは、ほんの一握りの成功から得られる莫大な利益のために、多くの失敗に耐える準備をする必要があるのです。バイオテックの世界で最も必要なのは、忍耐なのかもしれません。スキャンポのストーリーは、ひとつには、上野博士と久能博士の忍耐のストーリーでもあります。

なお私共は、上野博士と久能博士にお会いしたことがないことをご承知ください。1年ほど前にインタビューをお願いしましたが、IPO(新規株式公開)が終了するまでは、会社としてインタビューに応じられないとのことでした。そのため、私たちはこのレポートを作成するにあたり、一般に入手可能な情報に頼らざるを得ませんでした。しかしながら、株式公開会社として、同社経営については、豊富な情報が開示されています。このレポートは、主に五島由佳子と小林伸太郎によって作成されました。浦野陽子も一部を執筆しております。そして、鶴川真理子と市川明日香が作成補助をいたしました。

将来、日本におけるバイオベンチャーの成功についてレポートできる日が来ますことを、切に願っております。

2007年12月

MSA パートナース マネージング・メンバー
クリス・ビックリー

本レポート掲載の情報は、公開情報を基にMSAが編纂したものです。弊社は、当該情報について基づいて起こされた行動によって生じた損害・不利益等に対してはいかなる責任も負いません。掲載記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。

Copyright © 2007 MSA Partners LLC